

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和 4 年 5 月 27 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	研究会		行事番号	220000048	
開催日	令和 4 年 5 月 14 日 (土)～ 令和 4 年 5 月 27 日 (金)				
時 間	開 始	—	終 了	—	
場 所	Web 配信(オンデマンド配信)				
テーマ	「みんなで知ろう！輸血療法の基礎の基礎～いまさら聞けない輸血の基本～」				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	なし				
講 師	1. 基本操作/いまさら聞けない輸血のなぜ 社会医療法人宏潤会 大同病院 稲生千絵美 2. 血液型について JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 松井貴弘 3. 不規則抗体検査/交差適合試験 JA 愛知厚生連 江南厚生病院 市川 潤 4. 製剤管理について 社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 関山真実				
内 容	令和 4 年度の第 1 回研究会は新人技師や異動した技師を対象に輸血医療の基本を確認することができる内容とした。タイトルも“いまさら聞けない輸血の基本”とし、何気なく実施している操作などの意義についても詳説した。基本操作は、すべての検査に共通する重要かつ基本的な内容を丁寧に解説していた。血液型検査では、検査の手技はもちろん、患者誤認を防ぐ方策までしっかりと説明していた。不規則抗体検査、交差適合試験では、免疫学的な視点で赤血球凝集反応を説明することで手技の意味を深く理解できる講演であった。研究会では、基本操作、血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験と一般的な医療機関で実施される輸血検査を網羅し、さらには輸血管理部門として必要不可欠な製剤管理についても言及した。輸血部門の専従技師であれば、当たり前のことであっても非専従の方にとっては理解しにくいことも多い。そういった背景を鑑み、検査に留まらない研究会の内容であった。				
参加者	総数：445 名（会員 303 名、県外会員 141 名、非会員 0 名、賛助会員 1 名、学生 0 名、その他 0 名）（レポート提出 307 名）				
共催、後援など	なし				

2022.5.27

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和 4 年 7 月 29 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	研究会		行事番号	220003164 (現地開催)	
開催日	令和 4 年 7 月 9 日 (土)～ 令和 4 年 7 月 9 日 (土)				
時 間	開 始	15:00	終 了	17:30	
場 所	アーバンネット名古屋ビル 20F リップルスクエア				
テーマ	「輸血の教育方法を考える～新人技師から他職種まで～」				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	藤田医科大学 松浦 秀哲				
講 師	1. 新人教育の仕方と工夫 刈谷豊田総合病院 磯部 勇太 2. 質の高い部内教育の実践を目指して 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 二村 亜子 3. 他職種に向けての教育活動 名古屋市立大学病院 南里 隆憲				
内 容	輸血の安全性を高めるためには知識や技術を共有し、スキルアップを図る必要がある。そのためには教育活動が重要であり、新人技師や異動技師のみならず、部門内、他職種を含む輸血医療に関わる全てのスタッフが教育の対象となる。 磯部技師からは新人教育を中心に講演頂いた。効率的に新人指導を行うため、業務内容を明確にし、それを系統的にチェックする運用の紹介があった。基本的な事項に絞り込んで教育を実施することで短期間での教育を実践していることが紹介された。 二村技師からは質の高い部内教育を目指しての取り組みを紹介頂いた。部内での知識の共有や最新の知見を取り込むための抄読会の開催など聴講者にとって有益な情報が提示された。 南里技師には他職種を対象とした教育活動について講演頂いた。輸血チーム医療に関する指針の概略と成り立ちの経緯についてご解説頂いた。その上で、他職種にどのように教育を施すのかを具体例を挙げながら解説があった。 どの講演も参考になる情報が多くとても有意義であったとの感想が聞かれた。				
参加者	総数：22 名 (会員 22 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)				
共催、後援など	なし				

2022.7.29

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和 4 年 7 月 29 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	研究会		行事番号	220003175(web)	
開催日	令和 4 年 7 月 9 日 (土)～ 令和 4 年 7 月 9 日 (土)				
時 間	開 始	15:00	終 了	17:30	
場 所	Web 配信(ライブ配信)				
テーマ	「輸血の教育方法を考える～新人技師から他職種まで～」				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	藤田医科大学 松浦 秀哲				
講 師	1. 新人教育の仕方と工夫 刈谷豊田総合病院 磯部 勇太 2. 質の高い部内教育の実践を目指して 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 二村 亜子 3. 他職種に向けての教育活動 名古屋市立大学病院 南里 隆憲				
内 容	輸血の安全性を高めるためには知識や技術を共有し、スキルアップを図る必要がある。そのためには教育活動が重要であり、新人技師や異動技師のみならず、部門内、他職種を含む輸血医療に関わる全てのスタッフが教育の対象となる。 磯部技師からは新人教育を中心に講演頂いた。効率的に新人指導を行うため、業務内容を明確にし、それを体系的にチェックする運用の紹介があった。基本的な事項に絞り込んで教育を実施することで短期間での教育を実践していることが紹介された。 二村技師からは質の高い部内教育を目指しての取り組みを紹介頂いた。部内での知識の共有や最新の知見を取り込むための抄読会の開催など聴講者にとって有益な情報が提示された。 南里技師には他職種を対象とした教育活動について講演頂いた。輸血チーム医療に関する指針の概略と成り立ちの経緯についてご解説頂いた。その上で、他職種にどのように教育を施すのかを具体例を挙げながら解説があった。 どの講演も参考になる情報が多くとても有意義であったとの感想が聞かれた。				
参加者	総数：132 名（会員 76 名、県外会員 54 名、非会員 0 名、賛助会員 2 名、学生 0 名、その他 0 名）（レポート提出 97 名）				
共催、後援など	なし				

2022.7.29

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和 4 年 9 月 13 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	基礎講座		行事番号	220004222	
開催日	令和 4 年 9 月 10 日 (土)				
時 間	開 始	13 時 00 分	終 了	16 時 00 分	
場 所	ライブ配信				
テーマ	みんなで一緒に考えよう～こんな検体に遭遇したら、あなたはどのようにしますか？～				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	豊川市民病院 沖松 秀美				
講 師	【基本コース】 輸血検査の基本事項のまとめ、検査手技の確認 輸血検査研究班 班員（沖松秀美、磯部勇太、原田康夫、南里隆憲）				
内 容	基礎講座基本コースは輸血検査手技の基本について動画や教本を用いて丁寧に説明を行った。例えば、赤血球の洗浄方法を示し、洗浄手技のみならず洗浄する理由まで解説された。解説には愛知県臨床検査標準化協議会(AiCCLS)より発行されている「輸血検査における標準手順書」とそれに関連して公開されている動画を供覧しながら進行的した。 基本事項を説明したのち、実症例を想定した症例問題に取り組んだ。写真で反応像を示して参加者に判定させ、その後の対応についても意見を求めた。Zoom のブレイクアウトルームの機能を活用して、グループディスカッションを実施した。参加者は自分自身の考えを述べることで、グループメンバーの意見を聞くことで理解を深めることができたようであった。 コロナ禍における基礎講座の実施であったが、年に 1 回の入門的な基礎的輸血検査技術向上に資する基礎講座基本コースの役割を果たせたと思う。				
参加者	総数：24 名（会員 24 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：33 名				
共催、後援など	なし				

【総数】 現地開催、ライブ配信：参加者を記載（非会員や学生など内訳を記載）

オンデマンド配信：レポート提出者と講師、実務委員を記載

2022.9.13

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和 4 年 9 月 13 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	基礎講座	行事番号	220004233
開催日	令和 4 年 9 月 11 日 (日)		
時 間	開 始	10 時 00 分	終 了 16 時 00 分
場 所	ライブ配信		
テーマ	みんなで一緒に考えよう～こんな検体に遭遇したら、あなたはどうしますか？～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	日本赤十字社 東海北陸ブロック血液センター 加藤 静帆		
講 師	【応用コース】 ・事前課題の解説 ・輸血検査の応用的手法の解説 輸血検査研究班 班員（加藤静帆、林恵美、二村亜子、市川潤）		
内 容	基礎講座応用コースでは、今年度初の取り組みとして事前課題の検体を調製し参加者の施設に配布した。今回の検体は、低温反応性の不規則抗体および 37℃反応性の不規則抗体を保有する複数抗体症例、新生児の輸血検査、寒冷凝集素保有症例の 3 症例をテーマとして取り上げた。受講生には事前に自施設で当該検体の検査を実施して頂き、予期せぬ反応やその対応方法についてアンケートに回答してもらった。 担当者が参加者の回答を集計、解析することで知識の定着が不十分な箇所や重点的に説明する箇所を明らかにした。また、基礎講座の最中には 3 回のべ 60 分以上のグループディスカッションの時間を設け、意見効果や疑問点の解決につながるよう配慮した。 グループディスカッションでは事前課題の問題はもちろん、日常検査で困っていることなどが話し合わせ有意義な時間を過ごしているように感じられた。 全体での質疑応答の時間には多くの疑問点があげられ、班員からも意見を聞くことができ活発な意見交換が行われた。 コロナ禍においても基礎講座をバージョンアップさせ、実施できたことは輸血班として意義深い。		
参加者	総数：27 名（会員 27 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：29 名		
共催、後援など	なし		

【総数】 現地開催、ライブ配信：参加者を記載（非会員や学生など内訳を記載）

オンデマンド配信：レポート提出者と講師、実務委員を記載

2022.9.13

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和 4 年 12 月 20 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	講演会		行事番号	220012478	
開催日	令和 4 年 12 月 10 日（土）				
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	18 時 00 分	
場 所	ライブ配信				
テーマ	大量輸血・大量出血への備えと対応				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	藤田医科大学 松浦秀哲				
講 師	当院の緊急輸血対応～院内シミュレーション実施報告～ 社会医療法人宏潤会 大同病院 稲生千絵美 輸血部の備え～クリオプレシピテートとフィブリノゲン製剤の管理 愛知医科大学病院 片井明子 産科危機的出血と輸血 三重大学医学部産婦人科学教室 田中博明				
内 容	今回の講演会は「大量輸血・大量出血への備えと対応」をテーマとした。稲生先生からは緊急輸血の対応について解説していただき、大同病院での緊急輸血シミュレーションについて紹介して頂いた。緊急輸血の状況においては輸血に関わる全ての医療スタッフが対応を認識していることが好ましく、シミュレーショントレーニングは有用な方法であることが示された。片井先生からは輸血部の備えとしてクリオプレシピテートとフィブリノゲン製剤について講演頂いた。クリオプリシピテートを作製している施設は増えているが、他施設の運用を知る機会には乏しい。今回はクリオ製剤、フィブリノゲン製剤を以前から管理されている立場で注意点や症例を提示して頂いた。 田中先生からは産科危機的出血と輸血療法というタイトルでご講演を頂いた。産婦人科医師の立場で母体に何が生じているのか、なぜ輸血を急ぐ必要があるのか解説された。産科出血は母体死亡の大きな原因のひとつである。これは早期に DIC を併発し、凝固系が破綻し、出血が制御できないためである。その対応として、できるだけ早期に凝固因子を補充する輸血医療の介入が不可欠であるとのことであった。いずれの講演も大量輸血、大量出血に遭遇する可能性のある医療スタッフにとって大変有益なものであった。				
参加者	総数：108 名（会員 80 名、県外会員 28 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：165 名				
共催、後援など	なし				

2022.12.20

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：令和 5 年 2 月 24 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	研究会	行事番号	220019161	
開催日	令和 5 年 2 月 11 日（土）			
時 間	開 始	—	終 了	—
場 所	オンデマンド配信			
テーマ	令和 4 年度精度管理報告会～内部精度管理と外部精度管理の工夫と取り組み～			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司 会	JA 愛知厚生連 安城更生病院 山本 喜之 技師			
講 師	1. 令和 4 年度精度管理報告 愛知県がんセンター 早川英樹 2. 当院の精度管理の工夫と取り組み 豊橋市民病院 中村 藍 3. 当院の精度管理方法と今後の展望 JA 愛知厚生連 知多厚生病院 植田 祐介			
内 容	今回の研究会のテーマは「令和 4 年度制度管理報告会～内部精度管理と外部精度管理の工夫と取り組み」とし、精度管理に関わる内容を学ぶ機会とした。早川技師からは令和 4 年度の輸血領域の精度管理報告を行った。今年度より直接抗グロブリン試験、紙上不規則抗体同定を評価対象としたこと、ABO 血液型検査は評価対象外として二次サーベイを実施したことが報告された。 中村技師からは中規模～大規模医療機関の視点で精度管理の工夫について報告があった。行っている精度管理の方法から課題についてまで言及された。 植田技師からは小規模医療機関の視点で講演していただいた。小規模施設特有の問題点や対応法について講演していただいた。 輸血検査の精度管理は、その他の臨床検査部門と異なり統計学的精度管理が難しい。また施設規模によって実施できる内容に違いが生じる。そのため、各施設が手探りの状況で精度管理を行っているとも言える。本講演では具体的な精度管理の方法が示され聴講者にとって自施設の精度管理のあり方を再考する良い機会となったと思われる。			
参加者	総数：104 名（会員 86 名、県外会員 18 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：138 名			
共催、後援など				